

第2分科会

市立八幡病院の建替を検討してはどうか？

Q 市立八幡病院は老朽化が進んでいるため、現在のまま使用し続けるとすれば、多額の補修費がかかる。

平成18年度の決算を見ると、病院経営は大変厳しい状況であるが、近隣への建替などを検討してはどうか。

A 八幡病院は、救命救急センター、第2夜間・休日急患センター等の機能を有しており、本市の救急医療の拠点となっている。

しかし、老朽化に加え、旧施設基準で建築されていることもあり、効率的な救急医療を行うには、大変手狭で機能性に欠けている。

そこで、今後の整備にあたっては、①現施設の改修により機能を維持するのか、②全面改築により、診療機能や療養環境を抜本的に改善するのか、③改築した場合、多額の事業費を厳しい病院経営の中で捻出できるのか、④周辺の民間医療機関が充実する中、多額の投資に見合う医療需要が将来にわたってあるのか、などを慎重に検討する必要がある。

今後は、病院の経営改善に向けて策定予定の「中期経営計画」による改善状況を見ながら、長期的な視点で検討していきたい。

地球を守るために… 一市民環境力の向上を一

Q 環境問題に対する市民の意識は徐々に高まってはいるが、さらに一人一人の環境力の向上を図らなければ、最終的に地球が破綻することも危惧される。

そこで、昨年度、市民環境力強化事業を行っているが、その成果を尋ねる。

A この事業は、市民が主体となって取り組む環境活動を重点的に支援し、環境への意識・行動などの高まりと醸成を図るものである。大きく分けて、①循環型社会形成に向けた市民活動の支援、②環境教育等の推進、③地球環境の整備の3つの分野で取り組んできた。

具体的には、市民活動の支援として、自治会等が行う古紙の集団資源回収や、生ごみコンポスト化容器購入助成などを行った。その結果、古紙回収量の大幅な増加や、家庭ごみの減量率が目標の20%を上回る約25%に達するなどの成果が表れている。

また、環境教育等の推進として、「こどもエコクラブ」(143クラブ、約3,600人)の活動支援等を行った。これらの取組により、来年3月、「こどもエコクラブ全国大会」が本市で開催されることになっている。

このように、地球温暖化や環境破壊を防ぐためには、市民環境力を高めることが重要である。今後も、市民や地域の主体的で身近な取組への支援をさらに強化していきたい。



こどもエコクラブの活動の様子

第3分科会

民間企業の活性化策として期待！ —指定管理者制度の今後—

Q 平成19年度指定管理者の評価結果で、戸畑図書館がAランクとなった。指定管理者制度は、公共事業が削減される中、新たな民間企業の活性化策として効果が期待されるが、今後もっと幅広く進めていくのか。

A 戸畑図書館では、管理経費の削減効果に加えて、開館時間の1時間延長やビジネス支援図書コーナーの設置、英語の読み聞かせなどの新規企画事業が展開されており、民間ならではの創意工夫によるサービス提供に格段の向上が見られる。このことは、市民アンケートでも高く評価されている。

このように、同制度の導入は、財政が厳しい中、市民のニーズに見合ったサービスの効率的な提供に極めて有効だと思っている。また、民間に地方公共団体の仕事を開放することから、地域経済の活性化に貢献することも可能となる。

今回の評価を踏まえて、今後どのような分野で拡大できるのか前向きに検討していきたい。



ビジネス支援図書コーナー

市長が目指す「教育日本一」とは？

Q 平成18年度は「北九州市教育行政総合計画」の実施1年目であったが、その成果を検証すると、教育現場にはいじめや不登校などの深刻な問題が山積している。これらの現状を踏まえ、「教育日本一」を目指す市長の考えを尋ねる。

A 本市では、スクールヘルパーなど多くの市民が学校を見守る取組をはじめ、いじめや自殺などの問題を解決するための学校支援チームの設置、優れた教員の表彰など、独自の試みもを行っている。

しかし依然として、いじめや不登校、非行などの現状は厳しい。そこで、この現状を直視して、教育委員会の枠にとらわれずに地域全体で教育や子育てを考える「北九州方式」の教育のあり方を作りたいと考えている。

現在、「子どもの未来をひらく教育改革会議」を設置することにしており、有識者など幅広く意見を求めて、しっかりと教育を立て直し、日本中が注目する成果を上げたい。

優れた教育は、人や企業が集まる決め手にもなることから、教育現場だけでなく、北九州全体の浮揚という大きな課題を解決する手がかりにもなる。私もその議論に参加し、学校や地域が一体となって、「教育日本一」を目指したい。